様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　２５　年　　５月　１１　日現在

機関番号：２２６０４
研究種目：若手研究（B）
研究期間：2010 年度～2012 年度
課題番号：22730173
研究課題名（和文）カール・ポランニーにおける市場社会と民主主義：『大転換』の知的・思想的源泉
研究課題名（英文）　Market Society and Democracy in Karl Polanyi’s Thought：Intellectual Origins of *The Great Transformation*
研究代表者 若森　みどり（WAKAMORI MIDORI）
首都大学東京・社会科学研究科・准教授
研究者番号：20347264

研究成果の概要（和文）：カール・ポランニー政治経済研究所が保管する資料が公開されて以降の、アーカイブ研究の進展に象徴される国際的なポランニー研究の成果を吸収しながら、『大転換』以前のポランニーの社会哲学や『大転換』以降の経済制度分析や経済社会学の展開、そして未完の構想や企画の関連性をも考察し、ポランニー思想の全体像を明らかにするよう努めた。カール・ポランニーについての研究をまとめた著書『カール・ポランニー：市場社会・民主主義・人間の自由』（NTT 出版）を 2011 年度に公刊し、未邦訳の重要な文献の翻訳書『市場社会と人間の自由』（大月書店）を 2012 年度に公刊した。

研究成果の概要（英文）：I have worked on the analysis of Karl Polanyi’s ideas on freedom, democracy and limits of market society, and published a book on Karl Polanyi in 2012, which is the first comprehensive introduction in Japanese to Polanyi’s ideas and legacy. It deals not only the famous text, but also unpublished materials, notes, lectures, pamphlets, and his journalistic articles written during 1920s- 1950s. Cooperated by Kari Polanyi-Levitt and Karl Polanyi Institute of Political Economy, I coedited and translated a Japanese edition of new selected works of Karl Polanyi. It has a new translation of the last chapter of *The Great Transformation*: Freedom in a Complex Society.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010 年度	600,000	180,000	780,000
2011 年度	600,000	180,000	780,000
2012 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総　計	1700,000	510,000	2210,000

研究分野：経済学
科研費の分科・細目：経済学説・経済思想

キーワード：カール・ポランニー・市場社会・産業文明・民主主義・危機・社会哲学

１．研究開始当初の背景

1986年にポランニー生誕100周年記念会議がハンガリーのブダペストで開催され、翌年1987年、カナダのモントリオールのコンコーディア大学にポランニー政治経済学研究所が設立されて以来、ポランニー政治経済学研究所の主催するカール・ポランニー国際会議の開催は、申請者が参加した昨年末の会議で11回目を迎えた。

この20年間に、ポランニーが活躍した4つの舞台とそれに照応した時期区分（オーストリア=ハンガリー二重帝国時代（1886－1919)、ウィーン時代（1919－1933)、イギリス時代（1933-46)、アメリカ時代(1947-64)）に基づく、未公刊資料や未収録草稿、講演用原稿、シラバス、書簡などの公開がポランニー研究所において整備され、『大転換』の思想史的な研究の可能性が拓かれた。

ポランニーが生前に完成させて刊行した書物は少なく、『大転換』と小冊子『今日のヨーロッパ』(1937）にとどまり、彼は、その未完成な理論や構想を、膨大な未刊行の著作――多くの論説、草稿やメモ、研究計画書、講演用の原稿や講義のレジュメ、読書ノート、私的な手紙――として残している。

ポランニー国際会議のネットワークの形成のなかで、会議の開催国イタリア、ドイツ、フランスのポランニー研究者らが、ポランニー研究所の保管する資料をもとに、ドイツ語版とフランス語版で内容の異なる未収録論文集を編集、翻訳、公刊した。ポランニーの『大転換』の形成史やその後の発展を明らかにするための貴重な資料が 21 世紀に入ってまとまった形で公刊されたことは、ポランニー研究が、1987年にポランニー政治経済研究所の設立以降の新しい段階に突入したことを示している。

アーカイブを利用した本格的なポランニー研究として、デールの『カール・ポランニー』(Dale,G.,Karl Polanyi.The Limits of the Market,Polity Press,2010)があるが、市場経済と民主主義の対立やポランニー的思考における制度主義的展開が論じられていない。また、日本における研究書として、佐藤光『カール・ポランニーの社会哲学』(2006)と野口建彦『K.ポラニー――市場自由主義の根源的批判』(2011)があるが、前者は主として晩年のポランニーの自由論を、後者は『大転換』を中心にポランニーの経済像を議論していて、ポランニーの全体像の解明としては限定的であった。

２．研究の目的

本研究の第１の目的は、ポランニーの歩んだ軌跡を 1920 年代から最晩年に至るまで追跡し、その社会科学の全体像をテキストの解釈の積み重ねによって描く思想史的研究の方法を用いて、社会哲学・政治学・経済学という三領域から成るポランニーの社会科学と、経済史、経済人類学、経済社会学を中核とするポランニーの経済学を提示することである。第２に本研究は、社会哲学と政治学から「切り離された」経済学的思考に抗い、ミーゼスやハイエク、リップマンなどの経済自由主義的思考に対峙するなかで形成された、ポランニーの思想展開を追跡し、そこに貫流する一貫性を明らかにする。

『大転換』の知的・思想的起源を 1920 年代まで辿って検討したうえで『大転換』の立体的構造と主要命題を読み解き、ポランニー経済学を最終的に完成させることになった『大転換』後の経済社会学の試みが、マックス・ウェーバーの『経済と社会』の批判的継承を通じて「経済の究極にあるもの」を明らかにするための学問領域であった、ということを示す。

３．研究の方法

本研究の方法は、第１に、ポランニー研究の方法は、ハンガリー時代(1886-1919)、ウィーン時代(1919-1933)、イギリス時代(1933-1947)、北アメリカ時代(1947-1964)のそれぞれの時期における彼の論敵や彼が批判的に継承した思想家などについての諸論点を浮き彫りにし、従来のポランニー研究では欠けていた、公刊された文献とアーカイブを参照し引用や解釈に基づいて再構成する経済学史・思想史研究の方法にしたがっている。思想史の方法に従ってポランニーの全体像を描くことで、従来、経済史や経済人類学との関連で、あるいは、経済のグローバル化批判との関連で進められてきたポランニー研究を、経済思想史・社会思想史の領域にまで広げた。

第２に、市場経済と民主主義のジレンマ」という、市場社会の協調組合主義的制度変化／ファシズム分析の中枢をなすポランニーのテーゼの展開を追跡した。ウィーンにおいて経済を民主主義的に制御する実践や構想を吸収した1920年代のポランニー像を把握し、1920年代後半から1930年代の市場経済の危機における民主主義の弱体化とファシズムを分析したポランニーの論稿および1930年代後半のマルクス主義とキリスト教の対話を通して到達した社会哲学「共同体と社会の概念的区別」を重視した。

第３に、晩年のポランニーが市場社会の現実を変えることに挫折し、研究の関心を初期社会に移したという誤ったポランニーを訂正した。カンジャーニの研究を継承し、コロンビア大学時代のポランニーの著作をウェーバーの『経済と社会』の批判的継承の観

点から研究することによって、「社会における経済の位置」というコロンビア大学を研究拠点にして開始され遺著『人間の経済』にまで引き継がれた『大転換』後の研究企画を、ポランニー的な意味での経済社会学の形成過程として位置付けた。また、ロートシュティンと佐藤光の研究を継承して、最晩年の会話記録「ウィークエンド・ノート」の社会哲学を解読することによって、第二次世界大戦後のアメリカで新しい市場社会と核戦争の脅威を分析した晩年のポランニーの「自由と技術」の構想と論点、とりわけ複雑な産業社会における自由の定義を追跡した。

第4に、二重運動との関連のみで理解されている主著『大転換』の解釈を見直し、『大転換』の新しい理解を提起した。

こうした諸方法によって、カール・ポランニー国際会議を中心としたポランニー研究の動向を視野に入れた、日本のポランニー研究の新段階に貢献し、ポランニーと新自由主義の経済思想（リップマン、ミーゼス、ハイエク）との比較研究に道を開いたように思われる。

４．研究成果

平成22年度は、第一に、1920年代および1930年代のポランニー像の把握に努めた。20年代では社会的自由と透明性の論点を、30年代では世界経済危機とファシズムの台頭という時代のなかで、協調組合主義的資本主義への制度変化として市場社会の世界的な変容をリアル・タイムで分析するようになったポランニーが、共同体と社会の概念的区別を経て、『大転換』の制度主義的方法に繋がる思考様式を獲得した過程を、検討した（著書の草稿）。また、カール・ポランニー政治経済学研究所と連携しポランニー論文集の刊行に向けて企画を進めた。

平成23年度は、1920年から最晩年に至るカール・ポランニーの思索の軌跡を再構成した、単著『カール・ポランニー：市場社会・民主主義・人間の自由』（NTT出版、2011年11月）を公刊した（ポランニーの研究動向の最新段階を踏まえた序章、激怒の時代を生きた社会科学者ポランニーの生涯に言及した第1章、倫理的社会主義・社会的自由・透明性の論点を明らかにした第2章、世界経済危機とファシズムの台頭という時代のなかで市場社会の制度主義的な変容を考察した1930年代のポランニー像を描いた第3章、第4章『大転換』の世界、『大転換』後のポランニーの経済社会学（第5章）、原子力の平和的利用の時代を批判的に考察した最晩年の社会哲学（第6章産業文明と人間存在）、終章から構成）。

平成24年度は、カール・ポランニー政治経済学研究所、とりわけカリ・ポランニー＝レヴィット マギル大学名誉教授の助言を得ながら、日本での新しいポランニー論文集を公刊した（共編訳書『市場社会と人間の自由：社会哲学論選』大月書店）。

また、日本におけるポランニー研究の到達点・課題や現状について、推進されつつある新たなポランニー研究の課題と展望について、トマスベルガーベルリン工科大学教授とカンジャーニベネチア大学教授と意見を交わした。グローバリゼーション、リーマンショック以降明らかになった投機的な金融市場、欧州債務危機、財政健全化、労働市場の規制緩和、紛争・戦争、新自由主義のバリエーションおよび対抗的な脱経済成長路線の思想潮流など、ポランニーの現代性についての再評価がさまざまに行われているが、それらが同時に、制度の経済思想との連関などポランニーの思想史研究のさらなる展開をともなわれるべきことなど、今後の課題として共有された。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計４件）

① 雨宮 昭彦、若森 みどり、ヴェブレンが捉えた〈冷戦の起源〉に学ぶ：ヴェルサイユ条約批判と世界戦争への透視（訳者解説）、経営と制度、査読無、9巻、2010、89 - 93

② 若森　みどり「カール・ポランニー」、エコノミスト、査読無、vol.52, 毎日新聞社、2012、50-51

③ 若森　みどり「劣化する新自由主義と民主主義の危機」、生活経済研究、査読無、vol.603、2012、25-28, 生活経済研究所, 2012年8月

④ 若森みどり、書評Karl Polanyi, Globalisation and the Potential of Law in Transnational Markets, Joerges, Christian and Josef Falke, eds. Oxford and Portland, Oregon, Hart Publishing、経済学史研究、査読無、54－2、2013、3-85

〔学会発表〕（計８件）

① 若森 みどり、小峯敦編著『経済思想のなかの貧困・福祉』合評会：第2部へのコメント、経済理論史研究会、2011年12月23日、東洋大学

② 若森 みどり、拙著『カール・ポランニー』

合評会：塩野谷祐一一橋大学名誉教授・小林純立教大学教授のコメントに対するリプライ、経済学史学会　第2回関東部会、2012年1月21日、早稲田大学

③ 若森 みどり、カール・ポランニー：市場社会・民主主義・人間の自由、東京大学大学院経済学研究科政治経済学ワークショップ、2012年2月20日、東京大学

④ 若森 みどり、市場社会の限界とポランニーの現代性――カール・ポランニー研究の課題と方法、市場と社会研究会、2012年5月30日、日本大学

⑤ 若森 みどり、贈与論再考（現代の経済思想執筆項目について）、現代の経済思想研究会、2012年5月11日、東洋大学

⑥ 若森 みどり、原谷直樹会員の報告ハイエクの社会科学方法論へのコメント、経済学史学会関東部会、2012年11月17日、東洋大学

⑦ 若森 みどり、笠井高人会員の報告K・ポランニーの19世紀文明批判と「二重の運動」論―経済的自由主義と社会政策をめぐって―に対するコメント、経済学史学会関西部会第163回例会、2012年12月15日、名古屋市立大学

⑧ 若森 みどり、産業革命・文化破壊・経済的自由主義の創生：カール・ポランニーの自由論から環境問題を考える、南山大学社会倫理研究所「ガバナンスと環境問題」研究プロジェクト（招待講演）、2012年12月8、9日、南山大学

〔図書〕（計２件）

① 若森 みどり、NTT出版、カール・ポランニー：市場社会・民主主義・人間の自由、2011、294

② 若森みどり，他編訳、大月書店、カール・ポランニー『市場社会と人間の自由：社会哲学論選』、2012、350+ｘ（iii－ｘｉ，179-279）、訳者解説「カール・ポランニーの市場社会批判と社会哲学」、313-345

〔産業財産権〕

○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
若森　みどり（WAKAMORI　MIDORI）
首都大学東京・社会科学研究科・准教授
研究者番号：20347264

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：

。